

2025年5月20日

2025年 ゴールデンウイーク集客動向調査

昨年より1日多い最大11連休だったが前年比+2.0%にとどまる

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、「2025年 ゴールデンウイーク集客動向調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

調査結果の概要

1. 今年のゴールデンウイーク期間中（4月26日～5月6日：11日間）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（244先）の集客数は延べ723.9万人で、集計期間が1日多かったため前年（710.0万人）から+2.0%増加したが、1日平均では△7.3%減少した。
2. 多くのイベントが集中する5月3～5日は好天に恵まれたものの、間の平日が多い飛び石連休となったことや物価高が集客の足かせとなった。昨年に比べて、大型・広域のイベントが少なかったことも響いた。
3. イベントや施設の集客動向（人出）は以下の通りである。

① イベント（23先）	304.4万人	（前年比+ 0.5%）
② 交流拠点・商業施設（58先）	288.3万人	（前年比+ 6.2%）
③ 歴史・文化・自然観光（100先）	77.9万人	（前年比△ 3.8%）
④ アクティビティ・娯楽施設（63先）	53.4万人	（前年比△ 2.5%）
4. 行楽地での消費行動では、入場料や参加費、飲食代などの値上げによる集客への影響は全体としては小さかったが、内訳をみるとイベント・施設によって二極化する傾向がみられた。

※本件のお問合せ先 田野 雄也

2025年ゴールデンウイーク集客動向調査

～昨年より1日多い最大11連休だったが前年比+2.0%にとどまる～

主任研究員：岩本 真弥
研究員：田野 雄也

■今年のゴールデンウイーク期間中（4月26日～5月6日：11日間）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（244先）の集客数は延べ723.9万人で、集計期間が1日多かったため前年（710.0万人）から+2.0%増加したが、1日平均では△7.3%減少した。

■多くのイベントが集中する5月3～5日は好天に恵まれたものの、間の平日が多い飛び石連休となつたことや物価高が集客の足かせとなった。昨年に比べて、大型・広域のイベントが少なかったことも響いた。

■イベントや施設の集客動向（人出）は以下の通りである。

1. イベント（23先）…………… 304.4万人（前年比+ 0.5%）
2. 交流拠点・商業施設（58先）…………… 288.3万人（前年比+ 6.2%）
3. 歴史・文化・自然観光（100先）…………… 77.9万人（前年比△ 3.8%）
4. アクティビティ・娯楽施設（63先）…………… 53.4万人（前年比△ 2.5%）

■行楽地での消費行動では、入場料や参加費、飲食代などの値上げによる集客への影響は全体としては小さかったが、内訳をみるとイベント・施設によって二極化する傾向がみられた。

2025年のGWの人出は全体では前年比+2.0%だが1日平均では△7.3%の減少

今年のゴールデンウイーク（以下、GW）は、4月26日（土）～5月6日（火・振休）までで、前年（4月27日（土）～5月6日（月））より1日多い11日間であったが、4月28日と、4月30日～5月2日までの3日間の平日をはさむ飛び石連休で、休日をつなげにくい日並びだった。期間中は晴天に恵まれた日が多く、特にイベントが集中する5月3～5日は好天に恵まれたものの、その前後の5月2日、6日は強い雨に見舞われた。

こうした状況下で、今年のGW期間中の静岡県内の主なイベントや観光施設244カ所の人出は延べ723.9万人と、前年（710.0万人）から+2.0%増加した（詳細は6頁 図表7参照）。ただし、1日平均にすると65.8万人で、前年（71.0万人）と比べ△7.3%の減少となった。

イベント・施設ごとの集客動向は、244カ所のうち125カ所（51.2%）で昨年の人出を上回ったものの、集計期間を加味すると好調とはいえず、屋内施設に比べ、屋外施設の弱さが目立った。

曜日配列や物価高が集客数を押し下げ 国内遠方からの来訪者の伸びも鈍化

集客に影響を与えた事象をみると、プラスの要因としては、「天候・気温」（44.8%）が最も多く、特にイベントでは8割近くが好影響という回答であった（図表1）。ただし、動植物園・水族館ではプラスと回答した割合は2割にも満たず、前回調査と比べれば全体で△15.2ポイント下落した。次いで、「自施設の取組み」（41.7%）、「メディアやSNSなどへの露出」（37.1%）が上位に挙がり、周年記念や子供向けのイベントといった企画や、積極的なPRが集客増につながったとする回答が多かった。

4/26(土)	4/27(日)	4/28(月)	4/29(火)	4/30(水)	5/1(木)	5/2(金)	5/3(土)	5/4(日)	5/5(月)	5/6(火)

資料：気象庁 過去の気象データ検索より当所作成

一方、マイナスの要因としては、「曜日配列」(42.6%)が最も多く挙げられた。内訳をみると、動植物園・水族館、アウトドア施設では7割前後がマイナスの影響を指摘するなど、休日が分散したことが多くの施設で集客の下押し要因となった。続いて「物価高」(35.1%)が多く挙がった。物価上昇による可処分所得の伸び悩みや観光意欲低下が集客の足かせとなった様子もうかがえる。

また、昨年と比べた今年の来訪者の変化について尋ねたところ、いずれの類型でも「変化なし」が最も多かった(図表2)。加えて、プラスの回答の割合についても、前回調査と比べてそれぞれ低くなってしまい、伸び率は鈍化した。一方で、マイナスと答えた割合については、「県内からの来訪者」が前回から軒並み増加したのに対し、「海外からの来訪者」は4.7%と、相対的にみれば増加幅は限定的であり、インバウンド需要は底堅かった様子がうかがえる。

西部地域は昨年の花博開催の反動で伸び悩み 中部が堅調だった一方で、東部は低調

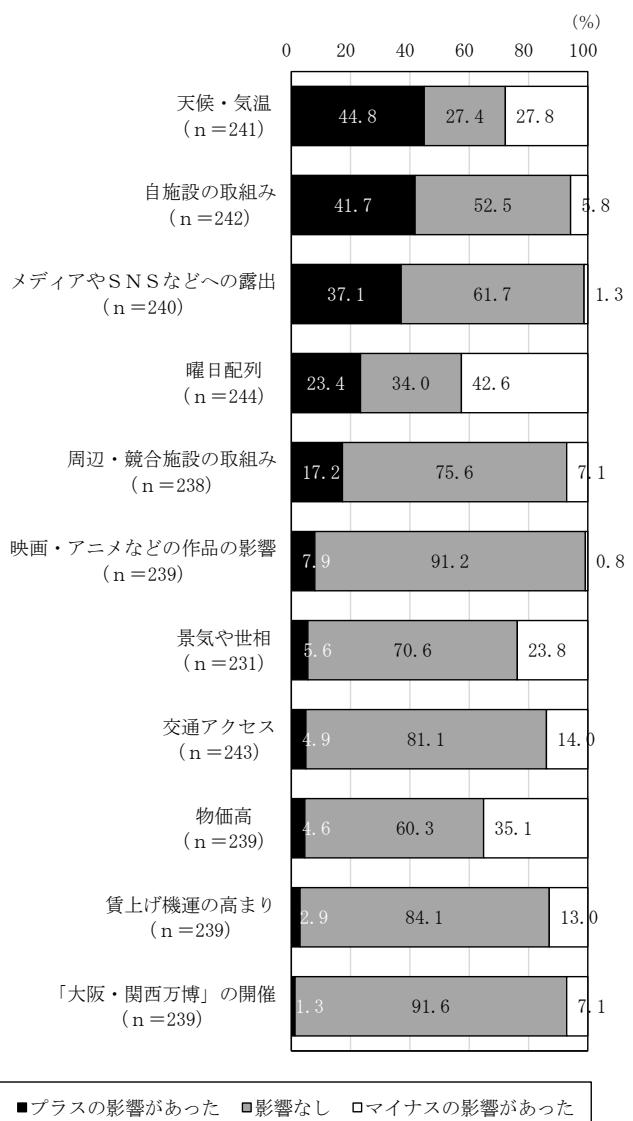
地域別にみると、西部地域は、県内最大級の祭りである「浜松まつり」は前年を上回ったものの、昨年開催された「浜名湖花博2024」(浜松市)の反動減もあり、前年比+0.4%の微増にとどまった。中部地域は、同+8.3%の増加となり、昨年を上回るイベント・施設の比率も57.5%と高く、他地域に比べて堅調だった。一方で、東部地域は、同△1.9%で、52.3%のイベント・施設が昨年よりも人出が減少した。

1. イベント(23先)

[人出 304.4万人 前年比+0.5%]
～好天に恵まれたが、花博の反動減響く～

県内の主要イベントの集客数は304.4万人で、前年に比べて+0.5%の微増となった。イベント開催が集中する5月3～5日は好天に恵まれ、「浜松まつり」(浜松市、249.3万人)が同+1.6%、「春のあたみビール祭り」(熱海市、2.2万人)が同+10.0%と増加となった。また「藤まつり」(藤枝市、8.2万人)では、開花状況が昨年より長かったことに加えて子供向けイベントを開催したことで同+74.0%の増加となったほか、

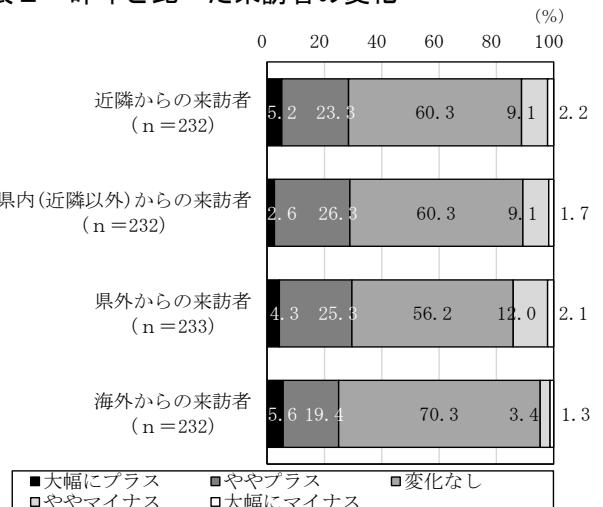
図表1 集客に影響を与えた事象



■プラスの影響があった □影響なし □マイナスの影響があった

資料：当所アンケート調査（調査方法は6頁参照）

図表2 昨年と比べた来訪者の変化



■大幅にプラス □ややプラス □変化なし
□ややマイナス □大幅にマイナス

資料：図表1に同じ

図表3 静岡県内のGW 集客5万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	所在地	集客人数	前年比
1	浜松まつり	浜松市	249.3万人	+1.6%
2	エスパルスドリームプラザ	静岡市	18.5万人	+4.5%
3	道の駅 富士川楽座	富士市	14.7万人	+4.7%
4	遠鉄百貨店	浜松市	12.7万人	+6.3%
5	イオンタウン富士南	富士市	12.6万人	+9.6%
6	道の駅 伊豆ゲートウェイ函南	函南町	9.8万人	+2.6%
7	浜名湖ガーデンパーク	浜松市	8.7万人	△25.9%
8	三島大社	三島市	8.5万人	△13.4%

	イベント、施設名	所在地	集客人数	前年比
9	富士山本宮浅間大社 流鏑馬祭	富士宮市	8.5万人	+0.0%
10	藤まつり	藤枝市	8.2万人	+74.0%
11	焼津さかなセンター	焼津市	7.1万人	+46.5%
12	はままつフラワーパーク	浜松市	5.6万人	△41.3%
13	三島スカイウォーク	三島市	5.3万人	△13.1%
14	KADODE OOIGAWA	島田市	5.2万人	+0.1%
15	アクトシティ浜松	浜松市	5.1万人	+1.8%

注) データ公表が可能なイベント、施設のみを掲載した

資料: 図表1と同じ

「ストレンジシード静岡」(静岡市、4.0万人)では、駿府城天守閣を再現した段ボールアートが好評で、同+122.2%と大幅に増加した。

一方、浜名湖ガーデンパーク(同市、8.7万人)と、はままつフラワーパーク(同市、5.6万人)では、昨年20周年を記念して大々的に開催された「浜名湖花博2024」(浜松市)の反動減で、2会場合わせて同△32.8%の減少となった。

2. 交流拠点・商業施設(58先)

[人出 288.3万人 前年比+6.2%]
～天気や曜日配列の影響が小さく堅調～

交流拠点・商業施設の集客数は288.3万人で、前年比+6.2%の増加となった。

観光交流拠点(32先)は前年比+0.3%

観光交流拠点は、比較可能な32先のうち56.3%の施設が増加したものの、集客数は同+0.3%にとどまった。40周年にあわせ、「こども縁日」などの各種イベントを実施した「焼津さかなセンター」(焼津市、7.1万人)では、一部有料化した



▲写真1 40周年イベントを開催したことで多くの観光客を集めた焼津さかなセンター

コンテンツがあったにも関わらず同+46.5%の増加を達成した(写真1)。

一方で、来場者数のコントロールを企図して入場料金を調整した「三島スカイウォーク」(三島市、5.3万人)が同△13.1%減少したほか、今年リニューアルオープンした「清水魚市場 河岸の市」(静岡市、4.4万人)では、駐車場が減少した影響で同△7.1%となるなど、供給面での制約もみられ、全体としては微増にとどまった。

道の駅(18先)は前年比+4.9%

開館25周年を迎えた「道の駅 富士川楽座」(富士市、14.7万人)は屋外広場でのマルシェやフリーマーケット、屋内の段ボール迷路といった企画が集客増につながり、同+4.7%の増加となった。一方で、昨年度実施された「Meets SHIZUOKA」のスタンプラリーの集客効果がはく落したことで、昨年集客を大幅に伸ばした「道の駅 いっぷく処横川」(浜松市、0.6万人)などは減少した。

大型商業施設(8先)は前年比+8.4%

大型商業施設は各所満遍なく増加し、同+8.0%の増加となった。「エスパルスドリームプラザ」(静岡市、18.5万人)では「ポップサーカス 静岡公演」などの近隣イベントや、施設内で実施した「静岡お菓子フェア」などが集客に寄与し、同+4.5%の増加となった。また、「遠鉄百貨店」(浜松市、12.7万人)でも浜松まつりの好影響を受けたほか、同市が展開している「シン・ハママツ計画」に連動して『新世紀エヴァンゲリオン』のポップアップストアを設置したこともあり、同+6.3%の増加となった。

3. 歴史・文化・自然観光 (100先)

[人出 77.9万人 前年比△3.8%]
～屋内施設は好調だったが、屋外施設は苦戦～

歴史・文化・自然観光の集客数は77.9万人で、前年比△3.8%の減少となった。

歴史・文化・ミュージアム (66先) は前年比+1.8%

歴史・文化・ミュージアムに分類される施設では、前年よりも減少した施設が54.5%と若干多いものの、「ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト」が開かれていた「静岡県立美術館」

(静岡市、1.7万人) など、イベントにより大きな集客につなげた施設の存在が全体を押し上げた。一方で、三嶋大社 (三島市、8.5万人) が同△13.4%、浜松城 (浜松市、1.4万人) が同△19.6%の減少と、屋外の寺社や史跡は集客が伸び悩む傾向にあった。

動植物園・水族館 (17先) は前年比△8.0%

動植物園・水族館に分類される施設では、70.6%が前年比割れとなっており、物価高や曜日配列に加えて連休最終日の大雨による集客への悪影響を指摘する声が多く挙げられた。このうち「静岡市立日本平動物園」(静岡市、2.5万人)では、GW中は園内駐車場を完全予約制にした影響も加わり、来園者数は同△26.9%と大きく減少した(写真2)。

自然・景観スポット (17先) は前年比△16.2%

自然・景観スポットは、「伊豆パノラマパーク」(伊豆の国市、1.6万人)といった、山や海などの景観が魅力の施設が不振で、高波などの気象条件による遊覧船の欠航が集客に響いた施設もあった。ただし、国内客が落ち込む中、海外からの観光者は増加したという声も寄せられた。

4. アクティビティ・娯楽施設 (63先)

[人出 53.4万人 前年比△2.5%]
～温浴・娯楽は堅調も、屋外活動意欲減退が響く～

アクティビティ・娯楽施設の集客数は53.4万人で、前年比△2.5%の減少となった。

アウトドア施設 (22先) は前年比△13.8%

物価高の影響がファミリー層を中心に顕在化し、来場者が減少したとの声が聞かれ、「富士山こどもの国」(富士市、2.4万人)、「伊豆ぐらんぱる公園」(伊東市、2.2万人)など同層を主力客とする施設は集客減が目立った。また同時

に、節約意欲が高まったことで、東部を中心として、旅館やホテルでの宿泊を伴いやすい地域の施設も苦戦した。このほか、キャンプ場などの野外宿泊施設では、休日が分散したことで集客が想定よりも伸びなかったという声もあった。

スポーツ施設 (15先) は前年比△1.7%

「自転車の国 サイクルスポーツセンター」(伊豆市、1.5万人)など屋外での活動が主となる施設では、雨天でマイナスの影響を受けたという声もあったが、一方で、「静岡県武道館」(藤枝市、0.9万人)などは大会が多く開かれたこともあり、同+33.0%と集客を伸ばした。施設単位では各種イベントや大会の有無に大きく左右される側面が強いものの、全体としては前年を若干下回る集客となったようだ。

娯楽施設 (7先) は前年比+9.5%

「シネシティ ザート」(静岡市、3.5万人)などの映画館では『名探偵コナン 隻眼の残像』をはじめヒット作が上映され、前回調査に引き続きプラスとなった。一方、「静岡競輪場」(静岡市、2.1万人)や「浜松オートレース場」(浜松市、1.5万人)といった屋外で行われる施設に関しては微減となった。

温浴施設 (19先) は前年比+3.0%

曜日配列や天候の影響を受けにくい温浴施設は総じて堅調で、集客が大きく落ち込んだ施設は少なかった。「沼津・湯河原温泉 万葉の湯」(沼津市、0.8万人)では、『ラブライブ!』シリーズとコラボしたイベントを展開したことが、同+8.8%の増加につながった。



▲ 写真2 駐車場を予約制にしたことで例年より人出が抑えられた静岡市立日本平動物園

飲食代や土産代は値上げ基調が続く
集客への影響については二極化する傾向

最後に、行楽地での消費についてみていく。まず、価格設定をみると、昨年から「飲食代」を値上げしたイベント・施設は31.6%、「土産代」は28.5%で、「入場料・イベント参加費」は11.7%であった（図表4）。このうち値上げをしたイベント・施設では、各項目について「変化なし」とする割合が前回調査（各項目7割超）から大幅に下がっただけでなく、集客が「増えた」・「減った」とする回答の割合がそれぞれ高まっており、イベント・施設によって二極化が進んでいる傾向がみられた（図表5）。

また、来場者の消費単価（客単価）をみると、概ね値上げ分がプラスとなったと捉えられる（図表6）。ただし、マイナスとの回答も3項目すべてで1割超あり、節約志向の強まりを示唆する動きも若干みられた。

A decorative horizontal line consisting of a series of diamond shapes, likely a separator or a decorative element in the document.

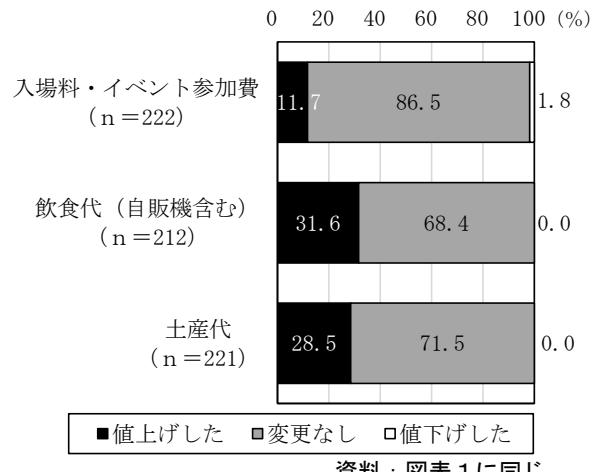
以上、今年のGW期間中の主なイベントや観光施設の集客動向をみると、期間中の合計人数では半数超の施設・イベントで前年実績を上回り、前年比+2.0%の増加となったものの、1日平均（単純平均）では同△7.3%減少する結果となつた。要因としては、曜日配列に加え、物価高の影響を挙げるイベント・施設が多かったほか、屋外施設では、最終日の雨天を嘆く声もあった。また、昨年実施された県内全域が対象となるスタンプラリーを含む「Meets SHIZUOKA」や、広域から集客をした「浜名湖花博2024」のような大型のイベントが少なかったことも下押し要因となつたようだ。

消費行動では、値上げにより消費単価は上昇したとの回答が多かったが、値上げによる集客への影響については、二極化する傾向がみられた。

今年のGWは、全体として集客が伸び悩む傾向がみられる一方で、独自のイベントや企画で集客増に成功した施設も少なくない。また、渋滞や駐車場のキャパシティ不足をはじめとした供給面の課題に直面する施設も散見された。本県は豊富な観光資源を擁しており、観光・レジャー産業のポテンシャルは高い。インバウンド対応やオーバー

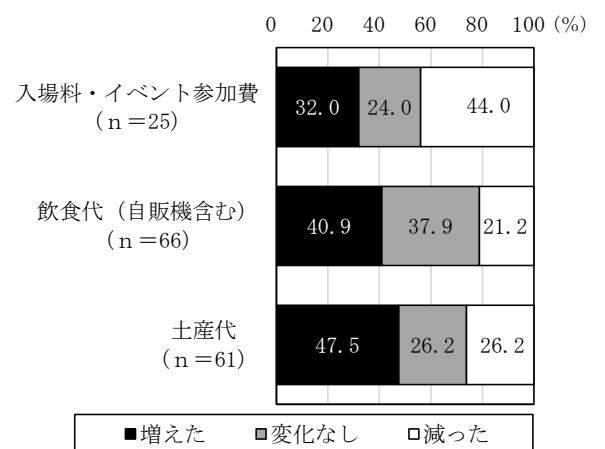
ツーリズム対策を進めつつ、施設独自の魅力を継続的に磨き、効果的に発信していくイベント・施設が増えることで、持続的な賑わい創出や地域の活性化に貢献していくことが期待される。

図表4 昨年と比べた今年の価格設定



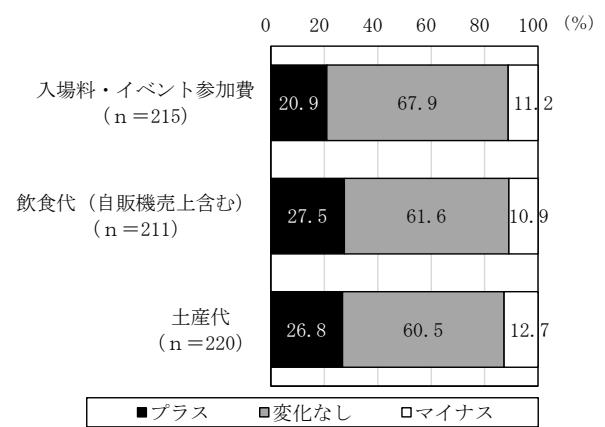
資料：図表1と同じ

図表5 値上げしたイベント・施設の集客数の変化



資料・図表1と同じ

図表6 昨年と比べた今年の来場者の消費単価



資料：図表1と同じ

図表7 2025年GW 静岡県内のイベント・観光施設の人出

イベント、施設名	所在地	人出（人）	前年比	イベント、施設名	所在地	人出（人）	前年比
道の駅 富士川楽座	富士市	146,857	+4.7%	シネシティ ザート	静岡市	35,210	+18.6%
イオンタウン富士南	富士市	126,442	+9.6%	みほしるべ	静岡市	26,383	+8.1%
道の駅 伊豆ゲートウェイ函南	函南町	98,475	+2.6%	静岡市立日本平動物園	静岡市	25,427	△26.9%
三島大社	三島市	85,362	△13.4%	草薙総合運動場	静岡市	24,449	+1.9%
富士山本宮浅間大社 流鏑馬祭	富士宮市	85,000	+0.0%	静岡競輪場	静岡市	21,464	△3.7%
三島スカイウォーク	三島市	53,000	△13.1%	日本平夢テラス	静岡市	19,635	△33.1%
富士山樹空の森	御殿場市	38,178	△11.8%	静岡県立美術館	静岡市	17,303	+104.7%
伊豆シャボテン動物公園	伊東市	33,781	+0.8%	笑福の湯	焼津市	10,882	+5.6%
伊豆高原 旅の駅 ぐらんぱるぼーと	伊東市	30,707	△6.0%	静岡市立登呂博物館	静岡市	10,632	+2.6%
白糸ノ滝	富士宮市	28,420	+3.3%	ディスカバリーパーク焼津天文科学館	焼津市	10,140	+25.1%
こいのぼりフェスティバル	沼津市	25,600	+2.0%	大井川港朝市	焼津市	10,000	+0.0%
ながはま特設市	熱海市	24,801	△15.0%	静岡市歴史博物館	静岡市	9,874	△1.0%
道の駅 ふじおやま	小山町	23,727	+10.0%	静岡県武道館	藤枝市	9,030	+33.0%
富士山こどもの国	富士市	23,718	△26.1%	ふじのくに茶の都ミュージアム	島田市	7,385	+23.5%
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	22,375	△38.0%	静岡市美術館	静岡市	6,976	△41.7%
春のあたみビール祭り	熱海市	22,000	+10.0%	瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	6,747	△1.6%
三島市立公園 楽寿園	三島市	20,482	△15.2%	西ヶ谷総合運動場	静岡市	6,531	+9.3%
姫の沢公園花まつり「つつじ・こいのぼりまつり」	熱海市	19,898	+5.6%	中部地域その他49カ所		1,313,646	—
道の駅 開国下田みなと	下田市	17,399	△9.8%	中部地域合計		2,081,586	+8.3%
沼津 みなと新鮮館	沼津市	17,304	△6.5%	浜松まつり	浜松市	2,493,000	+1.6%
伊豆パノラマパーク	伊豆の国市	15,954	△22.3%	遠鉄百貨店	浜松市	127,196	+6.3%
自転車の国 サイクルスポーツセンター	伊豆市	15,319	△7.6%	浜名湖ガーデンパーク	浜松市	86,946	△25.9%
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	13,567	△4.2%	はままつフラワーパーク	浜松市	55,851	△41.3%
田貫湖キャンプ場	富士宮市	12,985	△9.1%	アクシティ浜松	浜松市	50,590	+1.8%
道の駅 富士	富士市	12,608	+6.9%	道の駅 潮見坂	湖西市	42,504	+4.2%
修善寺 虹の郷	伊豆市	10,350	△0.7%	浜松市動物園	浜松市	28,629	+3.2%
御胎内温泉健康センター	御殿場市	9,755	△1.2%	ポートレース浜名湖	湖西市	25,272	+9.7%
静岡県富士山世界遺産センター	富士宮市	9,667	+8.8%	静岡県立森林公園	浜松市	19,000	+5.6%
香陵アリーナ（沼津市総合体育館）	沼津市	8,859	△1.6%	航空自衛隊浜松広報館 エアーパーク	浜松市	15,186	△2.6%
石廊崎オーシャンパーク	南伊豆町	7,912	△13.5%	浜松オートレース場	浜松市	14,871	△3.9%
沼津・湯河原温泉 万葉の湯	沼津市	7,607	+8.8%	浜松城	浜松市	13,898	△19.6%
みどりまつり	裾野市	7,269	△34.5%	浜松こども館	浜松市	11,154	+17.3%
伊豆フルーツパーク	三島市	5,759	+8.2%	竜ヶ岩洞	浜松市	10,336	△19.3%
垂山反射炉	伊豆の国市	5,274	△8.5%	浜名湖体験学習施設ウォット	浜松市	9,817	+4.0%
東部地域その他75カ所		672,594	—	掛川城	掛川市	9,256	△6.3%
東部地域合計		1,759,005	△1.9%	浜松市楽器博物館	浜松市	6,470	+7.7%
エスパルスドリームプラザ	静岡市	185,000	+4.5%	道の駅 いっぷく処横川	浜松市	6,168	△18.3%
藤まつり	藤枝市	82,129	+74.0%	とよおか採れたて元氣むら	磐田市	6,097	△10.2%
焼津さかなセンター	焼津市	70,856	+46.5%	浜松まつり会館	浜松市	5,468	+25.9%
KADODE OOIGAWA	島田市	52,385	+0.1%	ならここの里キャンプ場	掛川市	5,175	△2.5%
清水魚市場 河岸の市	静岡市	43,776	△7.1%	西部地域その他41カ所		355,511	—
ストレンジシード静岡	静岡市	40,000	+122.2%	西部地域合計		3,398,395	+0.4%
グランシップ	静岡市	35,726	+0.1%	静岡県合計		7,238,986	+2.0%

注1) データ公表が可能で、集客数が5,000人以上のイベント・施設のみを掲載した

注2) 各地域の最下部には、人手が5,000人未満、またはデータ公表を不可としたイベント・施設の人出を合算して記載した

注3) 人出の合計値は、昨年と今年の実数が比較可能なイベント・施設（新規開催のイベント・施設を含む244先）の数字を合算した

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、566先に調査票を発送、うち255先から回答を得た（有効回答率45.1%）